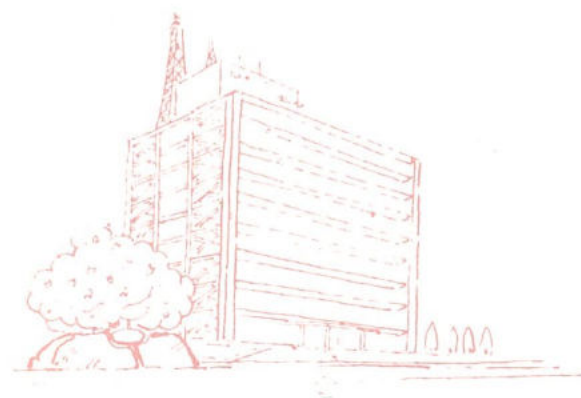


県勢発展と 県民生活の 安定に向けて

県勢この1年



1月 正月三が日の交通事故死傷者32人。交通事故^{ゼロ}への県民の願いや努力にもかかわらず、前年に比べ10人増と、先行きに不安を投げかけました。

一方、県政は、力強いスタートを切りました。県土の3分の2（106万²）を占める北上山系、その開発にける県にとって、阿原大鉢森地区（江刺市・大東町）の本格工事着手はうれしい便り。葛巻地区、新山貞任地区（遠野市・大槌町）、田代大川地区（岩泉町・川井村）に続く4番目の着工と[●]りました（九戸北部着工は11月）。

また、三陸縦貫鉄道久慈線最後のトンネル、切牛トンネルが貫通。全線開通に向けて、沿岸住民の方々から大きな期待が寄せられました。

不況打破を目指した大幅導入の公共事業を円滑に進めるため、県公共事業推進対策本部が設置されたのもこの月です。

2月 自然環境保全審議会で、仙人峠（遠野市・釜石市）と小谷鳥（山田町）が、新たに国の鳥獣保護区に指定の答申。県内の国指定の鳥獣保護区指定は、これで、早池峯、滝沢、五葉山、栗駒の4地区と合わせて6地区が指定されることになりました。

大阪、名古屋、東京、札幌で行われている岩手の物産と観光展一。その1つ、大阪高島屋展が開催され、花巻・大阪直航便による産地直送に、約25万[●]のにぎわいをみせました。

3月 53年度の当初予算（3,234億6,492万円）が県議会で可決。公共事業の大幅導入（総予算の約41[●]）による大型予算で、県民生活の安定と景気の回復に全力を挙げていくことになりました。

県の水産高校漁業共同実習船第1りあす丸が完工。4月には、広田水産高校生33人を乗せて、南洋に向かって処女航海に出航しました。

一方、国内では、成田新国際空港開港を目前に、過激派の手により管制塔が占拠・破壊、約2カ月後の開港を余儀なくされました。

各分野で施策推進 救命救急センターも着工

4月 新年度の始まりとともに、岩手の母なる川北上川、の清流化を図る松尾鉱害防止工事事務所の開設、増加する青少年の非行防止をねらいとした在学青少年指導員制度のスタート、資質の向上と職業生活の安定を目指した人材開発センターのオープンなど、各種事業が大きく進展しました。

また、交通事故や脳卒中など、重症患者に対応する高度の救急医療施設県救命救急センターが着工（盛岡市）。55年4月オープンに向けて、県民の期待が寄せられています。

民間福祉活動も活発な動きを示しました。遠野コロニーや岩手ワークショップなどの身障者福祉施設が相次いで完成。県民の連帯に支えられた福祉が着実に進行してきました。

5月 江刺中核工業団地や一関東工業団地など、団地造成が各地に進むなかで、県内初の工業用水道「北上中部」が完成し、北上工業団地内企業9社に給水を開始。官民一体の組織県中核工業団地導入対策研究会が発足するなど、誘致企業の導入対策も一層進展をみせました。

昭和41年に完成したわが国初の地熱発電所「松川」に続き、クリーンエネルギーとして注目を浴びた葛根地熱発電所が完成。日本一の出力5万[●]で運転を開始しました。

米の生産調整の実施という新たな農政の転機



▲期待担って、救命救急センター着工。

1978年 (昭和53年) 県勢ビッグテン

- 1 沿岸と内陸を結ぶ待望の国道106号が全線開通。東北自動車道、盛岡南インターまで開通
- 2 津波から生命・財産を守る「釜石港湾口防波堤」の建設始まる
- 3 県議会開設百年。県勢の一層の発展を目指して決意新たに
- 4 高度救急医療施設「県救命救急センター」の建設始まる
- 5 新日鉄釜石製鉄所、日鉄鉱業釜石製鉄所の合理化案提示される。県、対策本部を設置し、対応策に全力
- 6 200海里時代に対応し、漁民待望の県営栽培漁業センターに着工。国立北日本栽培漁業センター完成近し
- 7 米の生産調整実施。県農業は新たな転機を迎える
- 8 花巻空港拡張問題反対期成同盟会と合意調印。空港建設本格化へ
- 9 相次ぐ交通事故。県、市町村、交通非常事態宣言で対応
- 10 全国高校総合体育大会・国民体育大会で沼宮内高校ホッケー、男女そろって優勝

かで、配分目標面積1万900[●]を大きく上回る転作が、農家の方々や市町村等の協力で実施されることになりました。

水沢一高の競売問題に解決、開発否定の調査結果で岩泉石灰石開発計画に行き詰まり一などの話題があったのもこの月です。

6月 1月の伊豆大島近海地震、2月の北日本を中心とした大型地震に続いて、マグニチュード7.4



▲農家の方々の協力を得て、生産調整による転作も順調に推移。

の大型地震（宮城県沖地震）が発生。学校施設や道路などに約42億円の被害をもたらしました。

一方、県では、不時の災害に備えて、県全域を1つに結ぶ防災行政無線の整備計画を一層推進。災害時における情報網の確立を目指し、12月に事業着手することになりました。

県政百年記念事業の1つ、県立博物館の建設も、55年度完成に向けて本格工事に突入。3月に運輸省監査で経営改善を指摘された岩手県交通も、県民の足確保に向けて新体制で再建にスタート。

東北自動車道に続く高速大量交通、東北新幹線工事の進行状況をみると、一関工事区でレール敷設が始まるなど順調な推移をみせました。

相次ぐ高校生売春に、県売春防止対策本部会議が21年振りに開催されました。

大きな試練のなかで 空港拡張問題に和解

7月 止まらない交通死亡事故に、4月に続いて再度交通非常事態を宣言。事故抑止に積極的な指導・啓発活動が展開されました。

津波から市街地を守るとともに、釜石港を天然の良港から近代港湾に再生しようとする釜石港湾口防波堤の建設が開始。心に障害を持つ方々の生きる喜びと安住できる小社会づくりを目指した精神薄弱者総合援護施設コロニーが着工、54年度一部入所に向けて工事が進みました。また、県立遠野病院の移転新



▲世紀の大事業「釜石港湾口防波堤」の建設が始まった。

▼押し寄せる合理化。鉄の町釜石問題に対策本部を設置。



築、磐井・山田病院の増改築工事が始まるなど、県立病院の整備充実も進みました。

そのほか、太田方八丁（盛岡市）の志波城断定の話や海洋釣り堀公園（宮古市）オープンのニュースなどもありました。国内で有事立法の論議が沸き起こったのもこのころのこと。

8月 続く炎天、真夏日38日を記録するなかで、干ばつ被害が県南部を中心に広がり、牧草などに33億円を越す被害が発生しました。

多様化する福祉需要に対応するため、県では、約3,200人の民生委員の動員を得て、社会福祉総合動態調査を実施。東北初の試みとして、福祉作品展示販売常設コーナーが盛岡市に店開し、好評を博しました。

全国高校総合体育大会と10月の長野国体で、沼宮内高校ホッケーチームが男女そろって栄冠を獲得。岩手ホッケーの名を全国にとどろかせました。

鉄の町釜石、新日鉄釜石・日鉄鉱業釜石鉱業所に合理化の波が押し寄せ、11月、県は対策本部を設置。回避に向けて全力を挙げることにしました。

岩手の婦人対策の方向が決定。婦人の地位・福祉の向上が一層図られることになりました。

9月 花巻空港拡張計画が発表されて7年。6月以後の反対期成同盟会と県との急速な歩み寄りのなかで、空港拡張問題に和解が成立。確認事項を順守しながら、空港建設工事が再開されることになりました。

将来の水不足が予測されるなか、水資源の開発・確保に向けて地下水総合調査が開始。暴力追放の市

民の盛り上がりのなかで、県内最大の暴力団がついに解散。養殖ホタテに安全宣言が出され、2カ月振りに出荷自粛が解除されたのもこの月。海はサンマ漁でにぎわいをみせました。

着々進む基盤整備 県議会百年式典が挙行

10月 北上川のはんらんを遊水地で食い止めようとする一関遊水地計画。立ち入り測量が始まり、いよいよ実現に向けて動き出しました。

収穫の秋、農業改良普及事業30周年を迎えるなかで、農業まつりと産業まつり合同の大産業祭が開催。生産者意欲と県産品利用の輪が広がりました。

宮古一盛岡を結ぶ国道106号、17年の歳月と約238億円をかけた改良工事が終わり、地域住民の喜びのなかで全通式一。

遠くブラジルでは、大きな功績を残して県人会創立20周年記念式典が現地で行われました。現在、県人移住者の数は、約1,200家族、7,000人を数えるまでになっています。食糧危機のベトナムに岩手の米を…全国的な呼びかけが行われる一などの話題もありました。

11月 上野の池之端文化センターに端を発したコレラ集団感染事件、ついに本県でも保菌者が発見。コレラ防疫対策本部を設置して防疫活動を推進、二次感染の防止に努めました。

今年で県議会開設百年。県勢の発展に向けて決意



▲花巻空港拡張問題に和解。握手する猫塚反対期成同盟会会長と千田知事。

▼ホットな話題、沼宮内高校ホッケーチームがインタハイ、国体で男女そろって優勝。



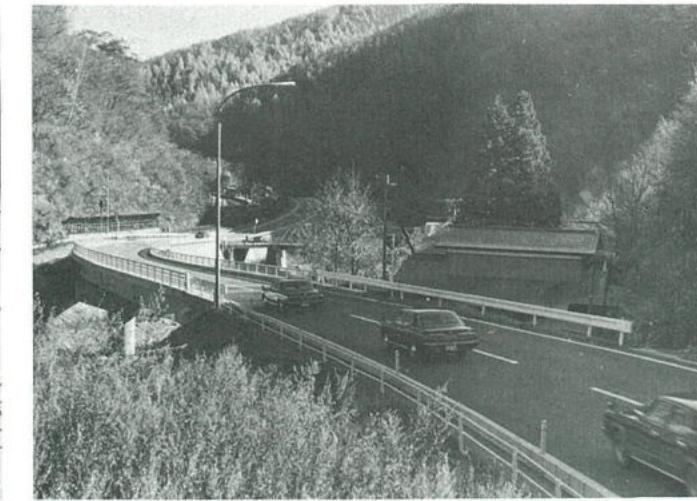
を新たにしました。

県営栽培漁業センターの着工（大船渡市）や北日本栽培漁業センター（宮古市）の建設促進など、2007時代に対応した新しい漁業に向け全力投球。水沢流通団地の着工や北上流通基地の造成完了など、高速大量交通に対応した流通体制の整備も進みました。

借金の返済に困り、ついには夜逃げ、自殺…全国的な問題となったサラ金地獄に庶民金融啓発強調月間を設定。巡回苦情相談の実施など知識の啓発が図られました。

12月 東北自動車道築館・一関間29.1kmが開通。埼玉県岩槻と盛岡南394.6kmが一直線に結ばれました。

県内外をとわず国際上でも円高という話題は、今年一年間の絶え間ない話題。差益還元などに新たな消費者意識の目が芽ばえてきました。



▲17年の歳月をかけた国道106号。全線開通に喜びと期待。